

稲ホールクロップサイレージ（WCS）を畜産農家で活用！（その2）

中能登農林総合事務所

水稻を丸ごと収穫し、ビニールで包んで発酵させた飼料は、^{ダブルシーエス}稲WCS（Whole Crop Silage＝発酵粗飼料）と呼ばれています。近年、県内でも利用が進んでいるものの、当管内においては、大規模な生産が行われていないため、一部の畜産農家で僅かに利用されている状況でした。

一方、平成29年度から志賀町で能登牛増産に向けて和牛子牛の生産を行い、現在約60頭の繁殖牛と約20頭の子牛を飼育している合同会社能登牛繁殖センター（以下、繁殖センター）は、当初、飼料の大部分を輸入に依存しており、経営の安定化に向け、飼料コストの削減が課題となっていました。

稲WCSは輸入粗飼料に比べ栄養価は同程度で安価なため、飼料コストを削減できます。また、稲作農家にとっては国の助成（水田活用の直接支払交付金）を得たうえで、水田を有効活用できる利点があります。このことから当事務所では、繁殖センターで利用する稲WCSの生産に向け、JA志賀と協力し近隣稲作農家への働きかけを進め、令和元年度に約1ヘクタールで試験的な生産を開始しました。

その後、当事務所では肥培管理や農薬の指導、試験用収穫調製機械の手配の他、稲WCSの栄養成分分析や繁殖牛への給与割合の指導などを実施してきました。その結果、繁殖成績の改善にもつながっていることから、3年目となる今年度は約6ヘクタールにまで面積を拡大することとし、引き続き、稲WCSの活用に向けて支援しています。

また、環境に配慮し地域の有機資源の有効利用を図るため、稲WCSの水田で繁殖センターの堆肥の活用を進めており、堆肥の土壌改良効果により、丈夫な稲が育つと畜産農家から好評を得ています。

今後も稲WCSをきっかけとした地域循環型の耕畜連携が円滑に進んでいくよう、支援を行っていきます。



稲WCSの収穫作業



稲WCSの梱包・運搬作業

問い合わせ先：農業振興部（0767-52-5522）